

平成25年度
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI
(研究成果の社会還元・普及事業)
実施報告書

HT25037

次世代グローバルリーダーの育成プログラム～将来の国際的キャリアをめざして～



開催日：平成25年7月25日(木)
平成25年7月26日(金)

実施機関：筑波大学
(実施場所) (筑波大学東京キャンパス文京校舎、世界銀行東京事務所、グーグル株式会社東京オフィス)

実施代表者：永井 裕久
(所属・職名) (ビジネスサイエンス系・教授)

受講生：7/25 高校生 15名
7/26 高校生 15名

関連 URL：<http://www.tsukuba.ac.jp/news/n201308021619.html>

【実施内容】

【受講生に分かりやすく研究成果を伝えるために、また受講生に自ら活発な活動をさせるためにプログラムを留意、工夫した点】

科研費の成果の理解とグローバル・リーダーシップへの関心を高めるため、本学での演習に加え、世界銀行東京事務所及びグーグル株式会社東京事務所の見学プログラムを取り入れた。当日は、受講生同士のディスカッションで意見を出し合い、積極的に講師やグローバルマネジャーに質問するアクションラーニング(行動による学習)を体験してもらうために、事前に資料を送付し、自分の意見やグローバルマネジャーに質問してみたいことなどを考える期間を確保した。

また、受講生を少人数に設定(各日15名)し、受講生全員が積極的に発言することができるように発言の機会を設けた。



【当日のスケジュール】(1回目、2回目とも同一日程)

- 9:30-10:00 受付(筑波大学東京キャンパス文京校舎 1階 121講義室)
- 10:00-10:20 開講式(オリエンテーション・科研費の説明)
- 10:20-11:40 レクチャー「次世代のグローバルリーダーに求められる能力」(講師:永井裕久)
アクションラーニング演習
- ①「グローバルリーダーシップシミュレーション」(講師:川崎将男)
(データマイニングを活用したグローバルリーダーシップのコンピテンシー測定シミュレーション)
 - ②「遠隔通信システムを利用した模擬国際会議」(異文化コミュニケーション体験)
- 11:40-12:30 外国人教員とのランチミーティング(英語/日本語)
- 12:30-13:10 バス移動(世界銀行DVD上映)
- 13:10-14:10 世界銀行グローバルオフィサーのプレゼンテーションと質疑応答
- 14:10-14:50 バス移動
- 14:50-15:50 グーグル株式会社グローバルマネジャーのプレゼンテーションと質疑応答
- 15:50-16:30 バス移動
- 16:30-17:00 フィードバックセッション(ふり返りのグループ討議)
- 17:00-17:30 修了式(アンケート記入、ジュニアグローバルリーダー・パスポート授与)
- 17:30 終了・解散

【実際の様子】

開講式では、永井教授から当日の日程と科研費の成果報告事業であることの説明があった。午前中は、永井教授をはじめ外部講師の川崎将男氏(株式会社アルゴ)によるレクチャーを行った後、受講生を3チームに分け、TV会議システムを使っての模擬国際交渉を行った。模擬国際交渉終了後は、各チーム毎にビジネスサイエンス系外国人教員を交えたランチミーティングを実施した。

午後は、世界銀行東京事務所、グーグル株式会社東京オフィスを訪問し、グローバルリーダーとして活躍されている方々から、国際舞台で働くにあたっての講演が行われ、講演中、時間が足りなくなるほど活発な質疑応答が行われた。

企業訪問後は再び文京校舎に戻り、フィードバックセッション及び修了式が行われた。修了式では、永井教授から本プログラムの全ての課程を修了したことを称して、未来博士号としての「Jr.Global Leader Passport」が受講生一人ひとりに手渡された。



【事務局との協力体制】

実施者と事務担当者との連携が図られ、随時、実施者と事務担当者との打合せが行われた。また、この事業の成功に向けて筑波大学として全学的な支援が行われた。

【広報体制】

開催の案内は、大学公式サイトおよびビジネスサイエンス系のwebサイトに掲載し、本学附属学校を始め東京キャンパス文京校舎近隣の高校を訪問して周知を図った。

【安全配慮】

本プログラムでは、特に危険が予想される内容は含まれてはいないが、訪問先企業を事前に訪問した際、受講生の移動ルートについて危険がないかどうか確認を行った。また、受講生を3チームに分け、各チーム毎に担当のファシリテーター(本学大学院生)を1名配置し、安全面にも配慮した。

【今後の発展性、課題】

今回は、本プログラムが初回の実施であったことに加え、受講生に対してより細かな対応を行うため、受講生を各日15名と少数に絞って実施した。次年度以降、今回の経験を踏まえ、より多くの受講生の受入れ等も検討したい。課題として、模擬国際交渉において議論が白熱し、若干、時間が足りなくなったこともあり、次年度以降はプログラムの時間配分についても考慮したい。

【実施分担者】

石隈 利紀(副学長(附属学校教育局教育長))
ベントン キャロライン(副学長(国際担当))
木野 泰伸(ビジネスサイエンス系・准教授)
マニエー 渡邊 レミー(ビジネスサイエンス系・准教授)
椿 広計(ビジネスサイエンス系・客員教授)

【実施協力者】 9 名

【事務担当者】

塚本 和代(研究推進部研究企画課専門職員)